



つよい子

令和7年度 学校だより

第3号

余市町立大川小学校

令和7年5月30日

【令和7年度 重点目標】 ◎ 『伝わること』を意識して生き生きと表現する子の育成
◎ 思いやりの心を持ち ルールとマナーを守る子の育成

ひと言…「大丈夫？」

校長 大山 敏広

5月上旬には、大川小学校の中庭やグラウンド脇の桜が満開となり、見事な花々から春の訪れを感じておりました。その後は、日を増すごとに日差しが強くなり、学校の教育活動においても、季節を感じたり、季節に合わせた活動を行ったりしています。

花壇にはマリーゴールドが植えられました。2年生は“ミニひまわり”の種を植え、その発芽を待ちわびています。環境委員会の児童や係の児童がお世話をしている姿にも温かさや頼もしさを感じます。

◆さて、今年度、本校が重点的に取り組んでいる教育の柱に「思いやりの心を育てること」とがあります。全校で共通の指導テーマとし、さまざまな場面での声かけや指導・実践をしています。

◆先日、ある教室でこのような場面を目にしました。端末（児童用のタブレット）を使った学習中、ある児童がしきりに隣の児童を気にしています。「何かあったのかな？」と思い見ていると、その児童は隣の児童にひと言「大丈夫？」と声をかけました。声を掛けられた児童は、微笑みながら「うん」と頷きます。なんとも温かな空気感です。



◆子ども・大人問わず、生活の中で、この「大丈夫？」という短いひと言に救われる場面は少なくないように思います。この言葉の中に「気にかけているよ」「見ているよ」「何かあったら言ってね」等々、たくさんの温かな思いが込められていると感じます。全校朝会の中でも『「大丈夫？」は短いけれど、素敵な言葉ですね』と話題にしました。

◆「思いやり」とは、「やさしくする行為」に限ったものではなく、相手の立場に立って考えることや気持ちを想像すること、そして気持ちに寄り添うことが大切になるのではないかと思います。

◆相手（人）の話を最後まで聞く。

「大丈夫？」と自然体で声をかける。自分の言葉が相手を傷つけていないかを考える。

…こうしたひとつひとつの経験

が、子どもたちの心を耕すことにつながるように感じます。



◆子どもたちにとって、毎日は試行錯誤の連続です。時には、感情をうまくコントロールできなかったり、ルールを破ってしまったりすることもあるでしょう。そうした経験を学びのチャンスとして捉え、「どうしたらよかったのか」「次にどう行動するか」を共に考え、自分も相手も大切にしようとする心を育んでいきたいと考えています。



スポーツフェスティバルは総練習を終え、いよいよ明日の本番を残すのみとなりました。当然のことながら、運動を好む子もいれば、あまり好まない子もいます。ただ、成長著しい小学生には、苦手なことに背を向けるのではなく、「自分が今できることに精一杯挑戦する」経験が大切で、「速さや勝敗だけではなく、粘り強く一生懸命取り組む美しい姿に期待している」と伝えています。

当日は、大川小の子どもたちのよさや頑張りがたくさん見られることでしょう。懸命に取り組む子どもたちに大きな声援と労い、お褒めの言葉をかけていただきたいと思います。6月も引き続き、本校の教育活動に御理解と御協力をお願いいたします。

